

---

# 死闘

片瀬

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死闘

### 【Nコード】

N3431A

### 【作者名】

片瀬

### 【あらすじ】

死闘<sup>しとう</sup>：生命の限り、たたかう事  
広辞苑より

何が起ころうと、オレはここから逃げたりしない。そうさ、まるで石か岩にでもなったみたいに微動だにしないんだ。

昨日の戦いで手も足もボロボロだったが、オレはそんな事気にしてはいらなかった。

ただひとつ気にかかっている事は……そう。今日この場所でチャンスの瞬間に痛みで動けなくなるのだけはゴメンだという事だろう。

オレは物音を立てないよう、自分が発する可能性のある全ての音という音に敏感になって、気配を読みながら足首を回した。

よし、いける。

痛みが全くないというわけではない。だが、それでもヤツを仕留める最低源のリーチまで全力疾走するのには、なんとか耐えられるような気がした。

どうかもつてくれ……オレの両足よ。

祈るように口の中で何度も呟くと、声にならないそれは力となってオレの全身に漲った。

去るのを待つだなんて面倒な事はゴメンだ。それに、そのままヤツがどこかへ行くのを静かに待っていいようなんてのは臆病者のする事だろう？

大体仲間がやられていく様子を黙って眺めてるだなんて、オレには耐えられない。オレはこう見えても正義感だけは強い男なのだ。

しかしそんなオレを嘲笑うかのようにヤツが一人の女を捕えた！

辺りに悲鳴が木霊する　　！

やられたか……！

オレは思わず目を瞑り、その悲鳴に耳を貫かれながらも拳をぐつと握り締めて耐えた。自分の奥歯がぎり、と鳴ったような気がして慌てて音を抑え込む。

今すぐに飛び出して救ってやりたかったが、彼女はもうダメだとオレの直感が告げていた。

今ここで冷静になれなくてどうする！

オレは必至に荒ぶる感情を叱咤して、現実を見つめようと両眼を開いた。

そこには彼女の無残な姿と、ヤツの嫌な含み笑いがあった。

くそ、負けてたまるかよ……！

オレはヤツの隙を窺った。ここまで来て、やられるわけにはいかない。

皆がオレに希望を託しているのが判る。散っていった仲間たちの

為にも、オレは今慎重かつ大胆な行動を迫られているのだ。

喰らう者と喰られる者の運命……それを今、覆す時。

遠い古より繰り返されてきた戦いは、当たり前のように強者と弱者の間に深い溝を作った。それでもオレは甘んじて受けるなんて真っ平だった。

最後まで諦めないと誓った。チャンスは一度きり。それで全てが決まる。

自分に欠片程でも勝機のある時を狙うしかない。それでも勝率は50……いや、40パーセントを切るといったところだろうか。

ヤツは手ごわい。失敗しようものなら、すぐさまそこでジ・エンドである。オレはこの場で呆気なく散り、ヤツに取り込まれてしまふのだろう。

それでもオレはやるしかないのだ。

今ここで、決着をつけてやる……！

音の全てを殺したまま、ぐつと足を踏ん張った。

心音さえも煩く感じる刹那の瞬間……！ その時、オレの両眼がヤツの隙を捕えた！

今だ！

「……っらああああアツ！」

オレは腹の底から声を搾り出して全身の筋力を一気に解き放った。両足が悲鳴を上げながらも、オレの力の全てを出し切らんと大地を蹴り上げる……！

突然の攻撃にも、ヤツは冷静さを失わずにオレに向き直った。ヤツはオレを足ごと潰そうと、同じように全身の力を込めて蹴りを放つ！

オレとヤツの目に天の高みから降り注いだ太陽光が反射して、二人の間に弾けた　　！

ガアアアアッ！

勝負は、ついた。

「あーあ、ついにオレの連勝もならなかったかあ！」

「アツタリマエだろ？　オレは次も絶対対え、蹴ってみせるぜ！」

やれやれとコンクリートに転がった空き缶を拾って、ヤツが言った。

仲間の手にタッチしたオレは、解放された彼等と笑い合いながらも筋肉痛に引き攣る足を抱えて走った。

（後書き）

はじめまして、片瀬です。

コメディに分類すべきとは思ったのですが、それでは勘繰られてしまうだろうなあという事でその他に登録させて頂きました。

最後に。沢山ある小説の中から当作品をお読み下さり有難う御座いました。批評・要望・感想なんでもどうぞです。片瀬でした。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3431a/>

---

死闘

2010年10月11日13時31分発行